

区民と区長のタウンミーティングで寄せられた主な意見

テーマ：障害のある子どもたちへの支援

（2026年7月11日開催分）

意見要旨
暮らし・生活について（生活環境・日常生活・施設利用・居場所）
アポロ園のような遊びを通じた発達支援をキッズ・プラザでも展開してほしい。
小学校内にキッズ・プラザと学童の両方があるが、出入口で混在しているため安全面で不安がある。キッズ・プラザの出入り自由な子どもたちに紛れて、学童に通っている子どもが職員の目の届かないうちに外へ出てしまう可能性がある。また、ドアのロックの高さが低く、子ども自身がロックを解除してしまう恐れがあるため、安全対策を行ってほしい。
命や人権を尊重する教育の推進など、教育の充実を図ってほしい。
ユニバーサルデザインを取り入れた公園について、配慮を必要とする子どもの利用が進むよう、周知や環境整備を進めてほしい。
障害のある人が社会性やコミュニケーション能力を身に付けられるよう、「大人向けの放課後デイサービス」のような居場所を整備してほしい。また、障害のある人が他者と交流し、社会性を育む機会を増やしてほしい。
区民が優先的に利用できる障害児向けサービスをさらに充実させてほしい。
新宿区の「マイペース（放課後等デイサービス）」のように、障害のある成人の方も土日や休日に利用できる居場所や交流の場を整備してほしい。
土日を含め、日常的に保護者が見守りを行っており、負担が大きい。また、行動面の特性により、移動支援を利用して外出することが難しい。そのため、土日や休日に放課後等デイサービスのように安心して通うことができる居場所や預かり支援を充実してほしい。 また、就労している保護者への支援や経済的支援の充実を進めてほしい。
保護者の急病時に未就学児を預けられる場所がなく困っているため、民間宿泊施設の活用も含め、ショートステイなどの緊急預かり支援を充実してほしい。
中野区内の自立訓練事業所や就労移行支援事業所を増設し、障害のある人が希望に応じて利用できる環境を整えてほしい。
「アポロ園のおもちゃライブラリーについて」通所している子どもたちにとって、なくてはならない大切な場所である。知育おもちゃなどの寄付を受け入れることで、子どもが過ごしやすい環境づくりを進めてほしい。
就学児の長期休暇中は通所時間が短くなり仕事との両立が難しいため、9時から17時まで利用できる預かり支援を実施してほしい。
障害のある方が利用しやすいよう、ユニバーサルベッドを備えたトイレの整備など、公共施設のバリアフリー設備を充実してほしい。

夜間にヘルパーの利用を希望しても受け入れ先を見つけることが難しいため、夜間の障害福祉サービスの提供体制を強化してほしい。
アポロ園のような遊びを通じた発達支援をキッズ・プラザでも展開してほしい。
中学生・高校生が利用できる居場所や預かり支援が不足しており、希望どおりに利用できない状況があるため、放課後や長期休暇期間中に安心して利用できるサービスを充実してほしい。
肢体不自由の学校に通わせているが、休校中は利用できないので、受入れ場所を確保してほしい。
障害者にとっては、高校卒業後、職業の選択肢が少ない。 就労のための支援を充実させてほしい。
放課後等デイサービスについて、必要とする人が利用できるよう受入体制を拡充してほしい。また、高校卒業後も放課後等デイサービスに代わる居場所や日中活動の場を整備し、障害のある人が安心して過ごせる環境を充実させてほしい。
移動支援は学校と家庭間の移動が中心となっているため、保護者の負担が大きい。 学校から放課後等デイサービス利用時や保育園等への送迎において利用しやすいよう、移動支援サービスを拡充してほしい。また、施設による送迎の実施が難しい場合は、外部委託等の活用を検討してほしい。
生活介護施設の送迎バスの定員不足により通所できない状況があるため、受入体制の充実を図ってほしい。

学び・成長について（教育支援・発達・人とのつながり）

区内のすべての中学校で別室登校の体制を整備してほしい。

授業への参加や理解に課題があるものの、特別支援学級の対象とならない児童に対する支援を充実してほしい。

診断の有無にかかわらず発達に特性のある子どもへの支援を充実してほしい。また、保育園、学校、放課後等デイサービスの連携を強化し、早期から継続的な支援を受けられる体制を整備してほしい。

区内の小学校・中学校において視覚優位や聴覚優位といった学習特性を踏まえたグループ編成や指導方法の工夫をしてほしい。

特別支援学級へのニーズの高まりを踏まえ、特別支援学級の設置を拡充してほしい。また、身近な学校で通級できる環境を整備し、児童・生徒及び保護者の負担軽減を図ってほしい。

障害のある子どもにとって、一斉指示では授業についていくことが難しいため、個別指導が必要だが、全教科対応しているわけではない。適切な支援を受けながら学べる環境を整備してほしい。

障害のある子どもを育てている親同士の交流の機会を作ってほしい。

中学校進学後の電車通学に備え、公共交通機関の利用に関する練習や支援を受けられる機会を設けてほしい。

中学校や高校への進学に関する情報提供を充実し、進学後の生活や進路の見通しを持てるようにしてほしい。

副籍交流を通じて、子どもの障害への理解が十分に進んでいないと感じる場面がある。障害への理解を深め、自然な交流を促進するため、クラス単位や学年単位での交流機会を増やしてほしい。
また、特別支援学級が設置されていない学校については、設置校との交流機会を設けてほしい。

学校によって支援員の配置状況やサポートの範囲に差があるため、支援内容の充実と均一化を図ってほしい。
また、プール活動や校外学習、クラブ活動などで保護者の付き添いを求められることがあり、仕事との両立が難しい状況であるため、学校における支援体制を充実してほしい。

小学校において支援を必要とする児童が増加している中、支援員が不足しており、障害の程度によって支援に差が生じているため、支援員を増員してほしい。

障害のある人が、高校卒業後に自立に向けた生活スキルや社会性を身に付けられるよう、「ゆたかカレッジ」のような学びや訓練の機会を提供する場を整備してほしい。

発達障害のある小学生への教育について、区の基本方針は通級指導であると認識しているが、不登校の子どもについても、放課後などに通級指導を利用できるようにしてほしい。

幼少期から成人後、就労後に至るまで、切れ目のない継続的な支援を受けられる体制を充実してほしい。

家族・地域の理解について（家族支援・周囲の理解・つながり）

子どもへの個別対応が必要な場合、その役割の多くが保護者、とりわけ母親に集中している現状がある。支援体制を充実していただきたい。

障害のある人やその家族から寄せられた意見を区政運営に反映するとともに、その反映状況をわかりやすく公表してほしい。

障害者に特化したタウンミーティングを定期開催してほしい。

障害のある人の社会参画支援や、スポーツを通じた社会参加の機会を充実してほしい。

区内のB型作業所について、利用者の活動の幅を広げるため、利用時間を18時頃まで延長し、作業や部活動等が行えるようにしてほしい。

東京都では障害のある人が「夜間に無料で年1回楽しめるイベント」があるが、中野区内でも同様のことができないか。障害者に興味や刺激を与えるきっかけになる。

支援やサービスのしくみ（支援体制・制度・医療・療育）

区内に移転してきた企業や大学と連携し、障害者の就労機会の拡充や働きがいのある雇用環境の創出を進めてほしい。

障害に関する各種手続きの簡略化をお願いしたい。

将来の自立に向けた支援の充実を図るとともに、進学や就労を含めた進路選択の参考となるよう、実際の進路事例やモデルケースをわかりやすく周知してほしい。

保育園への入園にあたって、医療的ケア児の受入枠が非常に限られているため、受入体制を充実させてほしい。
近隣区のように私立の保育園にも申し込めるようにしてほしい。

受入事業所の拡大と受入体制を充実させてほしい。

児童発達支援について、受入先や利用枠が不足しているため、利用回数・利用時間の充実を含めた受入体制の拡充を図り、保護者の就労や復職を支援してほしい。

在宅レスパイト、介護ヘルパー、短期入所を利用したくても所得に応じた利用者負担の差が大きく、利用を控えざるを得ない場合がある。利用者の負担軽減をお願いしたい。

各種制度における所得制限の撤廃を検討してほしい。

重度の心身障害や医療的ケアが必要な方を対象に、在宅レスパイトを活用した外出支援制度を整備してほしい。

医療的ケア児支援に関する法制度の動向を踏まえ、18歳以上の医療的ケア者に対する支援についても充実を図り、成人後も切れ目のない支援を提供してほしい。

障害児を対象とした支援の周知に力をいれてほしい。

区内で利用できる放課後等デイサービスの一覧がほしい。

子どもがパニック状態になった際の対応について、どこに相談すればよいかわかりにくいと、相談窓口の周知を充実してほしい。また、LINEなどを活用した気軽に相談できる仕組みを整備してほしい。

障害や発達特性のある子どもたちについては、障害の程度にかかわらず、一人ひとりの状況に応じた継続的な支援が必要である。安心して過ごせる居場所づくりを早急に進めてほしい。

支援機関は互いに連携し、情報の共有を徹底してほしい。

障害のある子どもが成長すると、体格や身体的な支援の必要性から対応できるヘルパーが限られ、必要な支援を受けることが難しくなるため、人材確保や支援体制の充実を図ってほしい。

就学支援シートについて、記載内容の簡素化を図るとともに、情報更新に必要な記載欄を充実させるなど、項目を見直してほしい。